

Ｊリーグ新規参入クラブに関する考察

A study of new enrolled clubs in J league

1K06B090

指導教員 主査 宮内孝知先生

蔵田 康太郎

副査 作野誠一先生

【序論 研究の動機・目的・方法】

Ｊリーグ参入を目指すクラブに興味があり、この「新規参入クラブ」にこそ日本のサッカー文化の未来が映し出されているのではないかと考えていた。このことを実証するべく、今後の日本サッカー界における新規参入クラブの存在意義を示すこととした。Ｊリーグが公開しているデータや関連する文献を基に研究を行った。また J2・ロアッソ熊本のチーム関係者へ行ったインタビューも参考にした。

【第１章 Ｊリーグクラブ営業収入の分析】

1993年に開幕したＪリーグはこれまで規模を拡大し続け、リーグ全体としては順調に営業収入を増やしてきた。しかしクラブ別に収入を見ていくと、その額には大きな格差があることが判明した。更にリーグを拡大していくためにはビッククラブだけが大きな収入を得るのではなく、新規参入クラブを含めた小規模クラブの成長が期待される。営業収入の内訳を見ても、全収入に対する広告料収入の割合が高く、クラブが企業に依存している状態だと言える。横浜フリューゲルスのように親会社に依存しすぎていたがためにクラブが消滅するという事態も今まで起きてきた。これを繰り返さないためにも各クラブはバランスの良い収入形態を築き、自立した運営を行っていかなければならない。

【第２章 新規参入クラブが抱える諸問題】

新規参入クラブがＪリーグ参入までに直面する課題は実に様々であった。まず地域住民にＪ

リーグを目指すことの意義・地域への貢献度を十分に理解してもらわなければならない。そして彼らからの手厚いサポートを受け、お互いに支え合っていかなければＪリーグ参入を目指しながらクラブの運営を続けていくことは難しい。そしてクラブが最初に挑戦するアマチュアリーグの体制も、プロクラブとしての経営を目指す彼らにとっては非常にやりにくい環境になっており改善が求められている。このように新規参入クラブを通して、日本サッカー界全体の問題を明らかにすることができた。

【第３章 百年構想の実現に向けて】

新規参入クラブは直面する課題を克服するために様々な活動を行っている。これらのクラブは地方都市を本拠地とすることも多く、地域との連携や周辺環境の整備などを行うためには各クラブがその地域の特性を理解した上で、独自の方法を作り出していかななければならない。その方法を確立し、結果として残しているクラブはまだ少ないが、この試行錯誤の過程こそＪリーグが目指してきた地域に密着し、地域に貢献するクラブのあるべき姿だと言える。これらの活動が新規参入クラブを通して全国各地に拡散していくことで、Ｊリーグの掲げる百年構想の実現と日本サッカー界の発展に繋がると言える。

【結論】

このように新規参入クラブには、日本サッカー界が抱える問題と、Ｊリーグがこれから目指すべき未来を同時に見出すことができた。Ｊリ

ーグはこのことに注目し、新規参入クラブが将来的にはリーグの中核を担えるよう、リーグ体制を含めた環境整備を進めていく必要がある。そして新規参入クラブはこれからも地域に密着し、地域に貢献するクラブ作りを続けていかなければならない。このことがＪリーグを始め日本サッカー界の更なる成長へと繋がるのである。Ｊリーグがこれまでのクラブ運営の形から本来目指すべき自立したクラブ運営の形に移行し、百年構想を実現させるためにも、新規参入クラブの存在はやはり非常に重要なものであったと言える。